

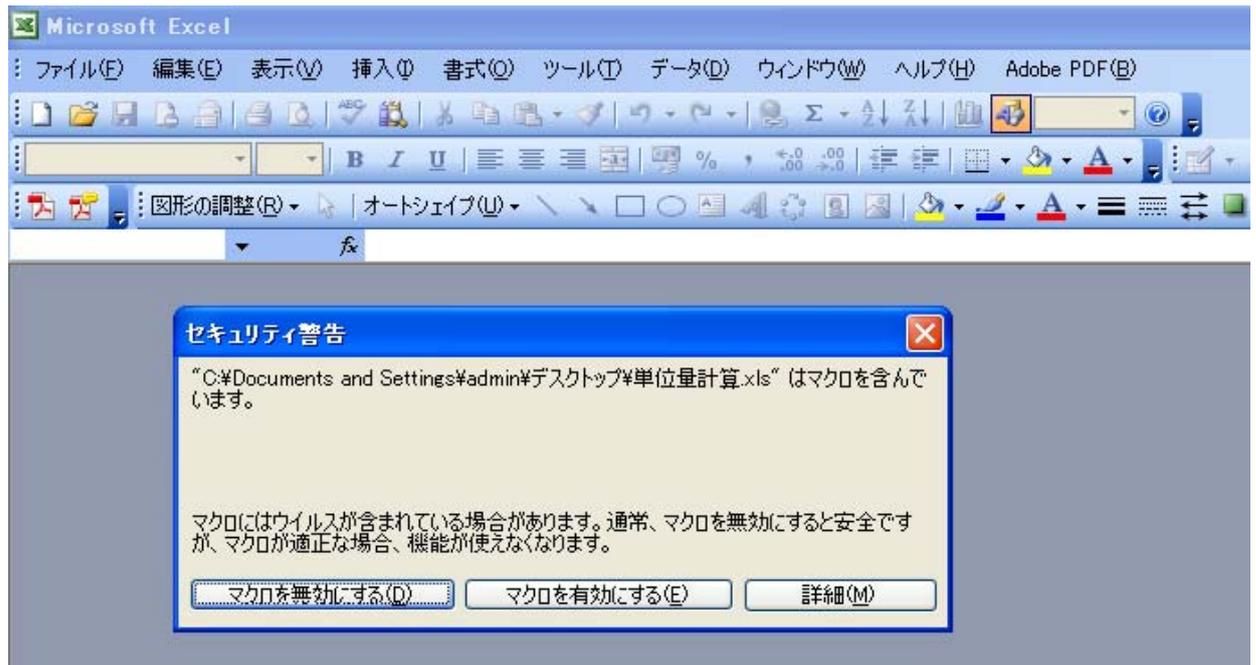
# 単度量計算表 Rev. 2 使用説明書

## 1. ファイルの開き方

セキュリティレベルを確認後、単度量計算表を開いてください。

Exele2003/2002 ではセキュリティ警告が表示されますので、“マクロを有効にする”を選んで下さい。

(Exele2003/2002 の場合)



パスワード入力の画面が表示されたら “zennama” と入力してください。

配合表

計量記録

保存データ

終了



このファイルの報告書識別名を記録します。

ようこそ【単位量計算表】です。“OK”をクリックしてください。

配 合 表

計 量 記 録

保 存 デ ー タ

終 了

このファイルの報告書識別名を記録します。



## 2. ファイル名称を付ける

この単位量計算表で作成した報告書にはすべて、報告書番号が与えられます。報告書番号には自動で、「識別名ー作成順の番号」が与えられます。次項に示すダウンロードで複数のファイルが作成できますので、それぞれのファイルに識別名を付すことにより「報告書番号」の重複を避けることができます。

画面下にある「このファイルの報告書識別名を記録します。」の文章の左側にある○印をクリックし、入力画面が表示されたら識別名を入力してください。例えば「A」と入力すると、報告書番号は、「A-1」から始まります。

配 合 表

計 量 記 録

保 存 デ ー タ

終 了

このファイルの報告書識別名を記録します。



### 3. プログラムのダウンロード

単度量計算表のファイルは、新たに書き加えた変更をCDに保存できないので、ファイル番号を付した後に、“名前を付けて保存”を選択して使用しているパソコン任意のファイル名を付けて保存してください。

配合表

計量記録

保存データ

終了



このファイルの報告書識別名を記録します。

### 4. 配合値の入力

メニュー画面から“配合表入力”を選択し、作成する計量記録に用いた配合値、及びその配合番号を記入してください。このとき配合番号は数字のみとしてください。英字等数字以外の入った配合番号はこのシステムでは検索できません。（最後にこのファイルを上書き保存することにより、次回からは、この配合を用いた計算を行うときには、配合内容の記入が不要になります。

なお、この欄には配合の記載例が示されていますので削除してからご使用下さい。

配合表		戻る		印刷		配合(kg/m <sup>3</sup> )												
配合番号	配合名称	W/C (%)	s/a (%)	粗骨材				細骨材			セメント			水	混和剤			その他の材料
				G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	C1	C2	C3	W合計	AD1	AD2	AD3	
1	普通27 18 20 N(標準配合)	53.4	46.9	775	192			491	335		331			182		3.450		

## 5. 計量記録の入力

### 5. 1 基本情報の登録

配合表の画面で“戻る”を選択し、メニュー画面に戻ったら、“計量記録”を選択すると、“計量記録”の画面が表示されます。次に“計量記録2”の左側のボタンをクリックしてください。計量に関する基本情報を入力画面が表示されます。

#### 計量記録2

[計量記録画面へ](#)

容積保証	目標スラッジ固形分率	混和剤の計量方法	混和剤の希釈倍率			計量器累加番号								その他の材料の規格値	
			AD1	AD2	AD3	G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	W1		W2
2.0%	2.5%					1	1			2	2		3	3	2%

容積保証: 0.0%単位で入力

目標スラッジ固形分率: 0.0%単位で入力

混和剤の計量方法: 混和剤の量を単位水量に含めないときは「1」を入力

混和剤の希釈倍率: 倍率で入力(小数点以下3桁まで演算)

計量器累加番号: G、S、Wごとに、累加する計量器に同一番号を入力する。

その他の材料の規格値: 規格値がある場合入力する。(混和材は2%)

材料名称: 必要に応じて記入、ただしW1はスラッジ水、W2はスラッジ水以外の水

入力に関する注意事項は以下に示します。

- 1) 容積保証及び目標スラッジ固形分率は、半角文字で、“2.0”と入力すると“2.0%”と表示されます。(初期値は2.0%が設定されています。)
- 2) 混和剤の計量方法; 混和剤の計量値を単位水量に含めない場合には「1」と登録してください。(その場合、混和剤の量を単位水量に含め計算します。)
- 3) 混和剤に希釈液を使用する場合には、混和剤の希釈倍率を登録してください。混和剤の希釈倍率を「4」と入力すれば、4倍希釈液の計量値を入力できます。
- 4) 粗骨材、細骨材、及び水の計量を個別で行うか、累加で行うかを登録してください。累加計量する計量器番号に同じ値を登録しておけば、計量値は累加計量値で入力できます。例えばG1、G2に「1」と入力し、G3、G4に「2」を入力すれば、G1とG2の計量値、G3とG4の計量値それぞれが累加になります。(初期値は、G1とG2、S1とS2、W1とW2がそれぞれ累加計量を行うよう設定されています。)
- 5) その他の材料に“設定値の単位量(A)と運搬車1台分の平均単位量(B)との差”の規格値がある場合はその値を入力して下さい。(初期値は、2%と設定されています。)

## 5. 2 計量記録の入力

基本情報の登録が終わったら、カーソルを計量記録の位置に戻し、白い枠内に計量記録値を入力してください。

計量記録

戻る

報告書閲

データー

データ保

●計量記録2へ

日付	練混ぜ開始時刻	車番	配合番号	配合名称					1車積載量		注記欄							
2009/12/15	8:00	100	1	普通27 18 20 N(標準配合)					4.20 m <sup>3</sup>									
	バッチNo.	G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	C1	C2	C3	W1	W2	AD1	AD2	AD3	その他	
		粗骨材①	粗骨材②			細骨材①	細骨材②		NC				スラッジ水	工業用水		AE減水剤		
計量記録	1バッチ目	1	1180	1500			780	1370		509.0			133.0	227.0		5.24		
	2バッチ目		1210	1460			800	1330		507.0			126.0	228.0		5.33		
	3バッチ目		940	1190			630	1100		404.0			118.0	181.0		4.25		
	4バッチ目																	
	5バッチ目																	
骨材の 表面水率 スラッジ水 の濃度	練り量(m <sup>3</sup> )		G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	W1								
	1バッチ目	1.50	0.9%	0.6%			3.5%	5.2%		9.3%								
	2バッチ目	1.50	0.9%	0.6%			3.3%	5.0%		9.7%								
	3バッチ目	1.20	0.9%	0.6%			3.1%	5.8%		10.5%								
	4バッチ目																	
人工軽量骨材の吸水率	—									—								
骨材の過大・過小粒	—	3.0%	1.5%				6.0%	4.5%		—								

JIS A 5308  
表-5への適合

G計  
適

S計  
適

C1  
適

W合計  
適

AD2  
適

計量目標値	1175	1461				802	1349		506			136.5	224.8		5.28		
	1175	1461				800	1346		506			131.0	227.4		5.28		
	940	1189				639	1079		405			96.7	179.8		4.22		

入力には以下の順序で行って下さい。

- 1) 日付；半角文字で“8/31”（8月31の場合）と入力してください。
- 2) 練混ぜ開始時刻；半角文字で“8:31”（8時31分の場合）と入力してください。
- 3) 車番・バッチ No.・配合 No.；半角文字で入力してください。バッチ No.は最初のバッチのみ入力すれば、次のバッチからは自動で表示されます。
- 4) 計量記録；計量読み取り記録を入力してください。
- 5) 練り量；バッチごとに半角文字で入力してください。骨材は整数値で、セメント、水及びその他の材料は小数点以下1けたで、混和剤は小数点以下2けたで入力できます。
- 6) スラッジ水の濃度；スラッジ水を使用する場合は入力してください。（入力は半角文字で、“2.5”と入力すると“2.5%”と表示されます。）
- 7) 骨材の表面水；そのバッチの補正した記録値を入力してください。（入力は半角文字で、“5.1”と入力すると“5.1%”と表示されます。）
- 8) 人工軽量骨材の吸水率；人工軽量骨材を使用する場合には、吸水率を入力して下さい。（入力は半角文字で、“19.5”と入力すると“19.5%”と表示されます。）
- 9) 骨材の過大・過小粒；骨材の過大・過小粒による補正を行う場合には入力してください。（入力は半角文字で、“3.5”と入力すると“3.5%”と表示されます。）

10) 注記欄は必要に応じて記入してください。

11) 材料名称は必要に応じて、材料名称欄に記入してください。

G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	C1	C2	C3	W1	W2	AD1	AD2	AD3	その他の材料
粗骨材1	粗骨材2	粗骨材3	粗骨材4	砂1	砂2	砂3	NC	HC	BB	スラッジ水	工業用水	AE1	AE2	AE3	混和材B

#### 材料名称欄

混和材など、その他の材料の計量値の記入には、“その他の材料欄”を使用してください。但し水は、スラッジ水はW1、スラッジ水以外の水はW2に固定されていますので、スラッジ水を使用しない場合でも水の量はW2に表示されます。

12) 入力終了した後に、“報告書閲覧”をクリックすれば入力した値の報告書を確認できます。

## 6. 記録の保存

入力完了後に、“データ保存”をクリックすれば、入力されたデータに“報告書番号”が付され、記録が保存されるとともに、次の入力を容易にするため、入力画面の“練混ぜ時刻”、“車番”、及び“計量記録”が消去されます。

次の入力時に、消去されていない部分（表面水、過大過小粒等）を変更する場合には上書きで訂正してください。

## 7. 報告書・計算手順説明書の印刷

### 7. 1 報告書の印刷

“データ保存”をクリックした後、“データ一覧”をクリックすると、保存した配合の報告書が表示されます。この画面で“報告書”をクリックし、報告書番号を入力すると、選択した報告書が表示されます。この画面で“印刷”をクリックすれば報告書の印刷が行われます。

報告書No.	日付	練混ぜ開始時刻	車番	1車積載量(m <sup>3</sup> )	配合番号	配合名称	計量器累加番号									
							G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	W1	W2	
5	2009/12/15	8:00	100	4.20	1	普通27 18 20 N(標準配合)	1	1			2	2			3	3

なお、報告書左上の“→”の右側には文字を記載できる欄があります。この欄は、報告書宛名などに使用できます。

→ ○○建設株式会社 殿  
 → △△ビル新築工事

\*\*\* 計量及び単位量算出記録 \*\*\*

日付: 2009/12/15 練混ぜ開始時刻: 8時00分 車番: 100 配合No.1 普通27 18 20 N(標準配合) 1車積載量: 4.20m3

	kg/m <sup>3</sup>	G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	C1	C2	C3
		G 合計	粗骨材 ①	粗骨材 ②			S 合計	細骨材 ①	細骨材 ②	NC	
配合計画値		775	192			491	335		331		
混和剤の希釈倍率											
人工軽量骨材の吸水率											
骨材の過大粒/過小粒		3.0%	1.5%			6.0%	4.5%				
バッチNo.1 表面水/スラッジ水濃度		0.9%	0.6%			3.5%	5.2%				
バッチNo.2 表面水/スラッジ水濃度		0.9%	0.6%			3.3%	5.0%				
バッチNo.3 表面水/スラッジ水濃度		0.9%	0.6%			3.1%	5.8%				
設定値の単位量 (A)	kg/m <sup>3</sup>	954.8				881.0			331.0		
バッチNo.1 計量値	(1.50 m3)	1180	320			780	590		509.0		
バッチNo.2 計量値	(1.50 m3)	1210	250			800	530		507.0		
バッチNo.3 計量値	(1.20 m3)	940	250			630	470		404.0		
運搬車1台分の平均単位量 (B)	kg/m <sup>3</sup>	968.7				887.0			331.5		

7. 2 計算手順説明書の印刷

報告書の画面から“計算手順説明書”をクリックし、計算手順書を表示させ“印刷”をクリックしてください。

戻る

印刷

計算手順説明書

配合名称: 普通27 18 20 N(標準配合)	項目・計算方法	配 合													
		G 合計	G1 粗骨材 ①	G2 粗骨材 ②	G3	G4	S 合計	S1 細骨材 ①	S2 細骨材 ②	S3	C1 NC	C2	C3	W 合計	
①	配合計画値 (kg/m <sup>3</sup> )	A	—	775	192			—	491	335		331			182
②	混和剤の希釈倍率による補正	B	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	混和剤量を希釈溶液で表した配合計画値 (kg/m <sup>3</sup> ) 希釈液を使用したとき A×B	C	—	775	192			—	491	335		331			182
③	人工軽量骨材の吸水率による補正	D	—					—				—	—	—	—
	骨材を表乾質量で表した配合計画値 (kg/m <sup>3</sup> ) C×(1+D)	E	967.0	775.0	192.0			826.0	491.0	335.0		331			182
④	骨材の過大・過小粒による補正	F	—	3.0%	1.5%			—	—	—	—	—	—	—	—
	過小粒を含まない量を配合計画値とするための粗骨材の量(kg/m <sup>3</sup> ) E÷(1-F)	G	—	799.0	194.9			—	—	—	—	—	—	—	—
	上記粗骨材の量に含まれる過小粒の量(kg/m <sup>3</sup> ) G-E	H	—	24.0	2.9			—	—	—	—	—	—	—	—
	粗骨材の過小粒の量の合計(kg/m <sup>3</sup> ) H行のG1~G4の合計	I	26.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

## 8. 記録の並べ替え

保存データの画面には、データが、保存した順番に保存されています。これを、“日付・練混ぜ開始時刻順”および“報告書の番号順”に並べ替えることができます。実施するには、それぞれ、“日時順”及び“番号順”をクリックしてください。

戻る 計量記録 報告書 データ並び順 日時順 番号順 退避 退避解除

報告書No.	日付	練混ぜ開始時刻	車番	1車積載量(m <sup>3</sup> )	配合番号	配合名称	計量器累加番号									
							G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	W1	W2	
1	2009/12/15	8:30	6	4.50	2	軽量2種 27 18 15 N(標準配合)	1	1			2	2			3	3
2	2009/12/15	8:00	100	4.20	1	普通27 18 20 N(標準配合)	1	1			2	2			3	3
3	2009/12/15	13:00	624	4.00	3	普通27 18 20 N 混和剤A(標準配合)	1	1			2	2			3	3
4	2009/12/15	14:00	66	3.00	4	1:3モルタル	1	1			2	2			3	3
5	2009/12/15	8:00	10	4.20	1	普通27 18 20 N(標準配合)	1	1			2	2			3	3

## 9. 記録の待避

このシステムでは、一度保存したデータは削除できません。また“報告書番号”を変更することができません。誤って入力したデータは、“データ待避”をクリックし“報告書番号”をクリックしてください。

戻る 計量記録 報告書 データ並び順 日時順 番号順 退避 退避解除

報告書No.	日付	練混ぜ開始時刻	車番	1車積載量(m <sup>3</sup> )	配合番号	配合名称	計量器累加番号									
							G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	W1	W2	
1	2009/12/15	8:30	6	4.50	2	軽量2種 27 18 15 N(標準配合)	1	1			2	2			3	3
2	2009/12/15	8:00	100	4.20	1	普通27 18 20 N(標準配合)									3	3
3	2009/12/15	13:00	624	4.00	3	普通27 18 20 N 混和剤A(標準配合)									3	3
4	2009/12/15	14:00	66	3.00	4	1:3モルタル	1	1			2	2			3	3
5	2009/12/15	8:00	10	4.20	1	普通27 18 20 N(標準配合)	1	1			2	2			3	3

入力

報告書Noを入力して下さい。

OK キャンセル

データの報告書番号の左側に“×印”が付されます。誤操作により待避したデータに戻すには、待避解除をクリックすれば“×印”は解除できます。

報告書No.	日付	練混ぜ 開始時刻	車番	1車 積載量 (m <sup>3</sup> )	配合 番号	配合名称	計量器累加番号									
							G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	W1	W2	
1	2009/12/15	8:30	6	4.50	2	軽量2種 27 18 15 N(標準配合)	1	1			2	2		3	3	
x 2	2009/12/15	8:00	100	4.20	1	普通27 18 20 N(標準配合)	1	1			2	2		3	3	
3	2009/12/15	13:00	624	4.00	3	普通27 18 20 N 混和剤A(標準配合)	1	1			2	2		3	3	
4	2009/12/15	14:00	66	3.00	4	1.3モルタル	1	1			2	2		3	3	
5	2009/12/15	8:00	10	4.20	1	普通27 18 20 N(標準配合)	1	1			2	2		3	3	

上記の例は、“車番”を誤って記入した場合の対応例ですが、この画面では待避の理由を記入することはできませんが、データコピーを行って作成したファイルには待避の理由を書き込むことができます。

## 10. 保存データのコピー

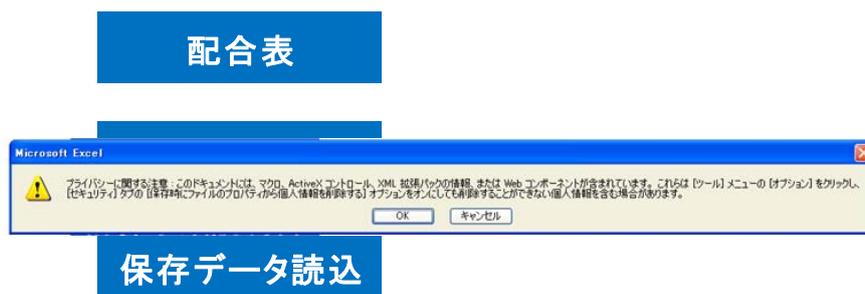
保存データの画面ではデータの印刷はできません。一覧表が必要な場合にはデータをコピーしてから印刷してください。“データコピー”をクリックするとデータのコピーが別ファイルに作成されます。(ファイル名はBook□という名称になります。)

## 11. 一覧表の作成

コピーされたデータの中から必要な項目を取り出せば一覧表が作成できます。15. に一覧表の作成例を示します。

## 12. 終了

メニュー画面から、“終了”をクリックするとエクセルファイルが終了します。上書保存の場合には、終了をクリックすると“変更を保存しますか”のメッセージが表示されますので“はい”をクリックしてください。その後、“プライバシーに関する注意”が表示されますので“OK”をクリックしてください。



## 13. その他

エクセルでは、データ入力時のカーソルの移動は縦移動に設定されています。データを横移動させるときには Excel2007 ではエクセルのオプションから、Exele2003/2002 ではツール→オプション→編集データを横移動に変更することが可能です。

## 14. 報告書の様式の参考例

### 14.1 普通コンクリートの例

\*\*\* 計量及び単位量算出記録 \*\*\*

日付: 2009/12/15 練混ぜ開始時刻: 8時00分 車番: 100 配合No.1 普通27 18 20 N(標準配合) 1車積載量: 4.20m3 容積保証: 2.0% 目標スラッジ固形分率: 2.5%

	G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	C1	C2	C3	W1	W2	AD1	AD2	AD3
	G 粗骨材 合計 ①	粗骨材 ②			S 細骨材 合計 ①	細骨材 ②		NC			W スラッジ 合計 水	工業用 水		AE減水 剤	
配合計画値	kg/m <sup>3</sup>	775	192		491	335		331			182			3.450	
混和剤の希釈倍率															
人工軽量骨材の吸水率															
骨材の過大粒/過小粒		3.0%	1.5%		6.0%	4.5%									
バッチNo.1 表面水/スラッジ水濃度		0.9%	0.6%		3.5%	5.2%					9.3%				
バッチNo.2 表面水/スラッジ水濃度		0.9%	0.6%		3.3%	5.0%					9.7%				
バッチNo.3 表面水/スラッジ水濃度		0.9%	0.6%		3.1%	5.8%					10.5%				
設定値の単位量 (A)	kg/m <sup>3</sup>	954.8			881.0			331.0			139.2			3.450	
バッチNo.1 計量値	(1.50 m3)	1180	320		780	590		509.0			133.0	94.0		5.24	
バッチNo.2 計量値	(1.50 m3)	1210	250		800	530		507.0			126.0	102.0		5.33	
バッチNo.3 計量値	(1.20 m3)	940	250		630	470		404.0			118.0	63.0		4.25	
運搬車1台分の平均単位量(B)	kg/m <sup>3</sup>	968.7			887.0			331.5			139.9			3.459	
設定値の単位量(A)と運搬車1台分の平均単位量(B)との差		+1%			+1%			+0%			+1%			+0%	
JIS A 5308 表-5への適合		適			適			適			適			適	
(参考値) 計量記録から算出した単位量	kg/m <sup>3</sup>	784	197		485	347		332			183			3.459	

運搬車1台分のスラッジ固形分率 2.60%

備考: 1車積載量, 及び計量値に示す「m3」は「m<sup>3</sup>」を示す。

報告書No.A-1

## 14.2 軽量コンクリートの例

### \*\*\* 計量及び単位量算出記録 \*\*\*

日付: 2009/12/15 練混ぜ開始時刻: 8時30分 車番: 6 配合No.2 軽量2種 27 18 15 N(標準配合) 1車積載量: 4.50m3 容積保証: 2.0% 目標スラッジ固形分率: 2.5%

	G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	C1	C2	C3	W1	W2	AD1	AD2	AD3
	G 人工軽 合計 量				S 人工軽 合計 量				HC		W スラッジ 合計 水	工業用 水			AE減水 剤
配合計画値	kg/m <sup>3</sup>	515			670				346		180				0.865
混和剤の希釈倍率															4
人工軽量骨材の吸水率		22.4%			12.3%										
骨材の過大粒/過小粒		0.0%			0.0%										
バッチNo.14 表面水/スラッジ水濃度		0.9%			4.3%						11.0%				
バッチNo.15 表面水/スラッジ水濃度		0.9%			4.3%						11.0%				
バッチNo.16 表面水/スラッジ水濃度		0.9%			4.3%						11.0%				
バッチNo.17 表面水/スラッジ水濃度		0.9%			4.3%						11.0%				
バッチNo.18 表面水/スラッジ水濃度		0.9%			4.3%						11.0%				
設定値の単位量 (A)	kg/m <sup>3</sup>	636.1			784.8				346.0		141.9				3.460
バッチNo.14 計量値	(0.90 m3)	580			700				315.5		70.0	69.0			3.20
バッチNo.15 計量値	(0.90 m3)	590			705				320.5		70.0	67.0			3.30
バッチNo.16 計量値	(0.90 m3)	580			700				317.5		70.0	69.0			3.20
バッチNo.17 計量値	(0.90 m3)	580			710				318.0		74.0	65.0			3.15
バッチNo.18 計量値	(0.90 m3)	570			710				318.0		70.0	70.0			3.20
運搬車1台分の平均単位量(B)	kg/m <sup>3</sup>	631.8			768.0				346.3		142.7				3.497
設定値の単位量(A)と運搬車1台分の平均単位量(B)との差		-1%			-2%				+0%		+1%				+1%
JIS A 5308 表-5への適合		適			適				適		適				適
(参考値) 計量記録から算出した単位量	kg/m <sup>3</sup>	512			656				346		180				0.874

運搬車1台分のスラッジ固形分率 2.45%

備考: 1車積載量, 及び計量値に示す「m3」は「m<sup>3</sup>」を示す。

報告書No.A-2

### 14.3 混和材を用いたコンクリートの例

#### \*\*\* 計量及び単位量算出記録 \*\*\*

日付: 2009/12/15 練混ぜ開始時刻: 13時00分 車番: 624 配合No.3 普通27 18 20 N 混和剤A(標準配合) 1車積載量: 4.00m3 容積保証: 2.0% 目標スラッジ固形分率: 2.5%

	G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	C1	C2	C3	W1	W2	AD1	AD2	AD3
	G 粗骨材	G 粗骨材			S 細骨材	S 細骨材		NC			W スラッジ	W 工業用		AE減水	混和剤A
	合計	①	②		合計	①	②				合計	水	水	剤	
配合計画値	kg/m <sup>3</sup>	775	192		480	325		331			182			3.450	20.0
混和剤の希釈倍率															
人工軽量骨材の吸水率															
骨材の過大粒/過小粒		2.0%	1.4%		3.4%	2.3%									
バッチNo.125 表面水/スラッジ水濃度		0.9%	0.6%		5.1%	2.3%					9.5%				
バッチNo.126 表面水/スラッジ水濃度		0.9%	0.6%		4.9%	2.2%					10.1%				
バッチNo.127 表面水/スラッジ水濃度		0.9%	0.6%		5.5%	2.4%					9.8%				
設定値の単位量 (A)	kg/m <sup>3</sup>	968.9			843.5			331.0			141.7			3.450	20.00
バッチNo.125 計量値	(1.50 m3)	1200	290		805	530		508.0			134.0	95.5		5.30	30.0
バッチNo.126 計量値	(1.50 m3)	1200	280		800	525		507.0			126.5	103.0		5.25	30.0
バッチNo.127 計量値	(1.00 m3)	805	190		540	355		345.0			88.0	62.0		3.60	20.0
運搬車1台分の平均単位量(B)	kg/m <sup>3</sup>	971.8			871.3			333.3			140.8			3.468	19.61
設定値の単位量(A)と運搬車1台分の平均単位量(B)との差		+0%			+3%			+1%			-1%			+1%	-2%
JIS A 5308 表-5への適合		適			適			適			適			適	適
(参考値)															
計量記録から算出した単位量	kg/m <sup>3</sup>	783	187		494	337		333			182			3.468	19.6
運搬車1台分のスラッジ固形分率		2.51%													

備考: 1車積載量, 及び計量値に示す「m3」は「m<sup>3</sup>」を示す。

注記: 混和剤Aは〇〇株式会社の責任で添加した。計量値は〇〇株式会社から報告された値を記入した。

報告書No.A-3

## 14.4 モルタルの例

### \*\*\* 計量及び単位量算出記録 \*\*\*

日付: 2009/12/15 練混ぜ開始時刻: 14時02分 車番: 66 配合No.4 1:3モルタル 1車積載量: 3.00m3 容積保証: 2.0% 目標スラッジ固形分率: 2.5%

	G1	G2	G3	G4	S1	S2	S3	C1	C2	C3	W1	W2	AD1	AD2	AD3	
	G 合計				S 合計			C 合計			W 合計	スラッジ 水	地下水	AE剤		
配合計画値	kg/m <sup>3</sup>				1426			460			250			1.150		
混和剤の希釈倍率														5		
人工軽量骨材の吸水率																
骨材の過大粒/過小粒								0.0%								
バッチNo.186 表面水/スラッジ水濃度								3.4%			9.4%					
バッチNo.187 表面水/スラッジ水濃度								3.4%			9.4%					
設定値の単位量 (A)	kg/m <sup>3</sup>				1474.5			460.0			201.5			5.750		
バッチNo.186 計量値	(1.50 m3)				2250			703.0			185.0	137.0	8.88			
バッチNo.187 計量値	(1.50 m3)				2230			701.0			180.0	140.0	8.92			
運搬車1台分の平均単位量(B)	kg/m <sup>3</sup>				1464.1			458.8			198.6			5.817		
設定値の単位量(A)と運搬車1台分の平均単位量(B)との差					-1%			-0%			-1%		+1%			
JIS A 5308 表-5への適合					適			適			適		適			
(参考値)																
計量記録から算出した単位量	kg/m <sup>3</sup>				1416			459			247			1.163		
運搬車1台分のスラッジ固形分率					2.44%											

備考: 1車積載量, 及び計量値に示す「m3」は「m<sup>3</sup>」を示す。

報告書No.A-4

戻る

印刷

データ一覧

計算手順

